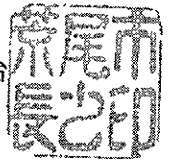




荒土木 第 565 号
平成 20 年 10 月 20 日

国土交通省道路局長 様

荒尾市長 前畑 淳治



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

標記の件につきましては、別紙様式のとおり回答いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 1

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

熊本県荒尾市

平成 21 年度より道路特定財源が、一般財源化されることになりましたが、「地方財政に影響を及ぼさないように必要と判断される道路は着実に整備する。」との基本方針で閣議決定されましたので本市では現在、都市計画道路（改良系 1 路線・補修系 2 路線）を交付金で整備していますが、全線完成するまでは継続して補助金が交付されることを切望いたしております。なお、本市においては整備すべき市幹線道路が少なくとも 6 路線ほどありますが、今後一般財源化されることにより上記路線について補助金交付路線に採択されるか懸念しておりますので地方道路整備への十分な財源確保を願いたい。

また、地方道路整備に不可欠な地方負担分の財源対策である総務省の地方債への交付税措置はもとより、国土交通省の起債できない分に対する無利子貸付制度は、今後も継続拡充を願いたい。

②-1 地域の現状と抱える課題

熊本県荒尾市

○ 現状

本市は熊本都市圏と福岡都市圏の間に立地し、大牟田市及び長洲町の工業地帯の間に位置することから、日常的に南北方向に通過型の交通需要が多く発生しているが、「有明沿岸道路」は、大牟田市までの計画である。

九州自動車道から、グリーンランド等の観光レジャー施設が集積している娯楽レクリエーション地区までの交通量が多く、休日においては交通渋滞が発生することがある。

また、東西幹線道路から海岸部の国道へ流れる交通需要が、交差点での交通渋滞を生じさせている。

幹線道路である国道と市道との未改良交差点で渋滞する箇所がある。

未改良の JR 踏切部において車の離合ができない箇所や遮断機がない箇所がある。(当市においては 19 箇所)

本市の道路橋梁は、昭和 40 年代に築造されその大部分が橋長 15m 未満の橋梁で、その老朽化が進んでいる。

○ 課題

熊本県側までの延伸が期待されている。

中央部から九州自動車道や大牟田市等の近隣市町への幹線道路の整備が課題となっている。

また、地域の活性化が期待できる九州新幹線とのネットワーク化が課題となっている。

右折レーンの整備等を、市町村が市町村道を含めた改良ができるような補助金交付制度が必要である。

踏切部の改良には、多額の費用がかかるので、市町村が負担する費用を軽減する補助金交付制度が必要である。

橋長 15m 以上の橋梁については、長寿命化修繕計画策定事業という制度(本市の道路橋梁の場合その対象となるのは2割程度)があるが、15m 未満の橋梁についても老朽化に対応できるような同様な補助金交付制度が必要である。

本市は現在、基幹産業であった石炭関連産業の衰退とともに、人口の減少、市民所得の低迷、市街地の空洞化等、まちの活力衰退の危機に直面している。

そこで、道路整備等を通して「産業の再生と創出」、「住みよいまちの創出」、「賑わいの創出」のための戦略的プロジェクトを実施し、2030年には有明地域の「優都」となるよう都市づくりを目指している。

老朽化している地域内幹線道路の舗装補修工事や、歩道が整備されていない道路への歩道設置を行うことにより、「都市交通の快適性、利便性の向上」および「総合的な交通安全対策及び危機管理の強化」を目指す。

・有明海沿岸部における広域幹線道路として、都市計画道路荒尾海岸線の整備を促進し、また有明沿岸道路については計画路線への昇格を目指す。

・主要地方道荒尾南関線、一般県道平山荒尾線及び主要地方道荒尾長洲線の整備を促進し、九州自動車道等へのアクセス強化を図る。

・商業施設が集積する緑ヶ丘地区からの交通の円滑化を図るため、都市計画道路中央野原線の整備を推進し、国道208号までの延伸を図る。

・本市の環状骨格道路の一部である都市計画道路万田下井手線の整備と、都市計画道路市屋深瀬線の延伸を図る。

これらの広域幹線道路および地域内幹線道路の整備を行うことにより、「地域活力の向上」および「都市交通の快適性、利便性の向上」を目指す。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 4

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

熊本県荒尾市

○重点事項 ・地域活力の向上 ・都市交通の快適性、 利便性の向上	○代表事例 ・地方道路整備臨時交付金事業 増永緑ヶ丘線道路補修工事	○期待する効果や評価等 ・期待する効果は、安全で快適な道路環境を確保することで道路利用者の利便性を高めることを目標におき事業を行ってきた。 ・評価としては、観光者の走行性が向上に加えて、沿道利用者の利便性も向上し、騒音等の沿道環境が改善している。	○ その他 ・要望としては、補修系交付金の拡充を図ってほしい。（一部の補修ではなく歩道等も含めた改良系的な補修系の確立を図ってほしい。
・総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	・交通安全等施設整備事業向一部藺牟田線道路改良工事	・期待する効果は、歩車道を分離することによる、歩行空間の安全性の確保。 ・効果としては、交通事故等の減少および路線利用者の安全性（バリアフリー化も含めて）を確保できた。	